

高等学校における 支援教育推進フォーラム

と き： 令和7年 11 月 26 日(水)午後2時～午後5時

ところ： 大阪府教育センター

次 第

1. 開会あいさつ

大阪府教育庁 教育振興室 高校改革課長 吉田 晶子

2. 基調講演

高等学校における特別支援教育の現状と課題

関西国際大学 中尾 繁樹 教授

～ 休 憩 ～

3. 実践報告Ⅰ

布施北高校における支援教育の現状と今後の課題

府立布施北高等学校 花井 優介 教頭

4. 実践報告Ⅱ

本校における通級指導について

府立中央高等学校 池田 新太郎 教諭

基調講演

「高等学校における特別支援教育の現状と課題」

関西国際大学 中尾 繁樹 教授

○ 略歴

- 神戸市立学校 教諭
- 神戸市教育委員会 特別支援教育課 指導主事
- こうべ学びの支援センター
- 関西国際大学 教育学部 教育福祉学科 教授
- 関西国際大学大学院 人間行動学研究科 臨床教育学専攻 教授

○ 専門分野

- 特別支援教育
- 発達心理学

○ 論文・著書等

- こどものホスピスプロジェクトにおけるプレイワーカー（プレイセラピー担当者）養成プログラムに関する研究Ⅰ
- 通常学級におけるインフォーマルアセスメントの有効性に関する一考察
- 配慮の必要な子供たちの二次的障害を予防するための縦断的・横断的研究
- 「特別」ではない特別支援教育Ⅰ～Ⅴ
- 「特別支援教育」ハンドブック
- 特別支援教育の理論と実践Ⅱ 実践編

高等学校における 特別支援教育の現状と課題

関西国際大学 中尾繁樹

今大変なこと

- ・ コロナ

だいぶん落ち着いてきましたが、まだまだ注意が必要です。各自の意識で変わります。

- ・ 教育・保育支援⇒ブラックな仕事?、希望者の減少・給与、待遇、忙しい?、専門性、子ども-先生-親のコミュニケーション、ICTと覚醒・前頭葉機能変化

- ・ ウクライナ、アフガニスタン、シリア……

- ・ 自然災害

自分のこととして、捉えよう。⇒今の自分に何ができるか。

一歩踏み出す勇気が必要。

みんなの特別支援教育とは

- 特別支援教育とは障がいの有無にかかわらず、すべての子どもたちのためにすべての教員がかかわる教育である。
- そのためには、一人一人違う学び方をしている子どもたちを理解し、楽しく「わかる、できる」ように工夫、配慮された授業を行う必要がある。集団の中での指導の個別化。
- 通常の学級における授業デザインをどう組み立てるかは、特別支援教育と教科教育の融合が必要になり、安心して過ごせる学級集団づくりが大切になる。
- すべての教員が特別支援教育を理解し、「わかる授業と楽しい学級づくり」の形成のための研修システムの開発が必要になってくる。

特別支援教育が普及・定着する意義

○いじめ不登校を未然に防止する効果

○教育的ニーズを把握し、それに対応した指導を行う → 障がいの有無に関わらず児童生徒の確かな学力の向上や豊かな心の育成にも資する

○教育水準や教員の専門性の向上



障がいの有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう共生社会

→ 特別支援教育の理念や基本的考え方が、国民全体に共有されることを目指す

発達障がいの診断は難しい

- PTSD？RAD？ADHD？ASD？DID？
- RADとADHDの報酬反応の違い
- ADHDは高い報酬ではドーパミンが出る
- RADは出ない⇒普通に育った子より誉める
- 虐待と脳年齢⇒1歳
- アタッチメントの構成は？
- 目と目、触感覚、微笑
- 関係者の協働がなければだめ

高等学校における 体制づくり

高等学校における特別支援教育体制の充実強化

- 校内支援体制の整備(体制整備状況調査)
 - ・小・中学校に比べ体制整備に遅れ
 - ・特に私立の高等学校に遅れ
- 校長をはじめとする管理職や教職員の特別支援教育についての理解・認識の向上策
 - ・平成19年4月の局長通知(校長のリーダーシップ、研修等)
 - ・特別支援教育体制整備状況調査で、特別支援教育についての研修を受けたことのある教員(32%)
- 生徒・保護者の理解・認識の向上策
 - ・各学校の実態に応じた生徒への理解啓発の在り方
 - ・本人・保護者の発達障がいへの認識
- 支援員の配置と求められる資質
 - ・幼・小・中学校の支援員の地方財政措置の経緯
 - ・高等学校における支援員に求められる資質・役割(介助・学習支援に加え、臨床心理士、カウンセラー等の役割)
 - ・学生支援員(総合推進事業の活用)

高等学校における特別支援教育体制の充実強化

- 生徒指導・教育相談等の既存の校内組織との連携
 - ・生徒指導部、教育相談部等の既存の校内組織を活用した特別支援教育体制の確立(メリット・デメリット等)
- 定時制・通信制の課程における対応
 - ・通信制の課程においては、スクーリング等により生徒の実態を把握し進路指導に活かすことが重要
- 私立高等学校に対する支援
 - ・教員研修・巡回指導等について、県教委が支援(知事部局との連携)
 - ・多様な取組を活かしたモデル研究の推進(モデル校の増)
- 特別支援学校のセンター的機能の活用
 - ・高等学校からの支援の要請が必要
 - ・特別支援学校の教員も高等学校教育の実態を認識する必要(連携)

発達障がいのある生徒への指導・支援の充実

○必要な支援・指導の手法・内容

- ・個別の指導計画、個別の教育支援計画（特別支援学校のセンター的機能の活用）
- ・高等学校の教育課程（弾力的な編成等）

○障がいの特性に応じた教科指導の工夫

- ・個別の指導計画の作成・活用
- ・指導体制（放課後等における全校体制の中での取組、自立活動類似の取組）

○ICTの活用

- ・ハードの整備・活用、教材等の在り方に係る調査研究等

発達障がいのある生徒への指導・支援の充実

○多様な評価方法やテストにおける配慮

- ・レポート指導や日常の授業への取組態度等を加味した総合的判断
- ・問題用紙の拡大等

○特別の教育課程の編成

- ・教育課程の弾力的運用（通級指導に類する実践の必要性、生徒の自尊感情等への配慮）

※制度化については、特別の教育課程、教員定数の問題との関連を要検討

- ・特別支援学級の設置に係る検討（特別支援学校高等部における知的障がいのある生徒の増加を踏まえ、入学者選抜等、小・中と高等学校の基本的相違を勘案した上で、後期中等教育の在り方に関わる問題として、改めて検討が必要）

○実践事例情報の集積・提供等

- ・国や関係機関による各学校の先進的な取組や優れた実践事例に係る情報の集積・発信
- ・特別支援教育総合研究所等における情報の収集・整理・提供

高等学校入学者選抜における配慮や支援

○配慮や支援の現状

- ・公平性を基本としつつ、別室受検、試験時間延長、個人面接等の配慮例あり

○中高連携(事前説明会、進路指導の充実等)

- ・高等学校から中学校及び保護者に対し、入試及び入学後における配慮や支援に関する情報提供
- ・生徒の障がいの状態や指導方法等について高校に伝達(保護者との連携)

○入試における配慮・支援についての保護者への周知

- ・保護者の懸念に配慮した情報提供

○入学決定後の対応

- ・中学校及び保護者との連携
- ・個別の指導計画・個別の教育支援計画への反映

キャリア教育・就労支援等

○発達障がいのある生徒へのキャリア教育、就労支援の在り方

- ・新学習指導要領におけるキャリア教育、職業教育等
- ・社会生活や就労に向けた適応力を高める観点からの適切な指導や支援
- ・高等学校モデル事業の成果等の全国的な普及

○特別支援学校のセンター的機能の活用

- ・特別支援学校高等部の実践的プログラムの強化、ノウハウ・情報の活用と設備の提供等

○就労・進学等に係る情報提供や関係機関との連携

- ・職業教育や就労について学校と企業の橋渡しを行う人材の配置
- ・大学等において受けることができる支援等に関する情報提供

○卒業後の就労支援のあり方

- ・卒業生に対する情報提供や相談先の紹介など可能な範囲における支援

特別支援教育の必要性・体制整備状況

必要性

- ・ 中教審答申(H17) 学校教育法改正
- ・ 高校進学者の約2%が支援を要する状況
- ・ (全日制に比し定時制・通信制では相対的に高い割合)

現状

- ・ 小・中に比し体制整備に相対的遅れ(校内委・コーディネーター:個別の指導計画・教育支援計画:1割前後→特に私立高の遅れ顕著)
- ・ 高校通級の成果を踏まえた対応が進捗している

体制の充実強化と指導・支援の 充実方策

体制の充実

- ・ 管理職・教職員や生徒・保護者の理解・認識向上
- ・ 専門性ある支援員の配置(財政措置の必要性)
- ・ 生徒指導等既存の校内組織との連携
- ・ 特別支援学校のセンター的機能活用／私立高への支援指導の充実

- ・ 障がい特性に応じた教科指導／多様な評価方法(レポート指導等)
- ・ 特別の教育課程編成の検討(学習指導要領の弾力的運用／通級指導教室)
- ・ 指導に類する実践等:生徒の自尊感情への配慮要)
- ・ ICTの活用／先進・優良実践事例の情報集積・発信

入口支援・出口支援

入試における配慮・支援

- 公平性を基本とした配慮と保護者への周知
- 中高連携(情報提供・入学決定後の引継ぎ等)

キャリア教育・就労支援等

- 社会生活・就労への適応力向上のための指導・支援
充実(SST*など:モデル事業成果の普及、特別支援学校との連携等)
- 関係機関との連携・情報提供(学校・企業の橋渡し人材配置等)
- 卒業後の継続的就労支援
- 高大連携

学校で感じる子どもたちの傾向

- 先生に自分だけ見てほしい
- 自分に甘く、他人に鈍感
- 楽しいこと、楽なことに流れる
- 気持が切りかえれない
- 覚醒レベルが低い
- 疲れている

配慮を要する子ども以外の要注意

- 問題行動をまねる
- わざと刺激して問題行動を大きくする
- かげでコントロールする
- 先生の前ではいい子
- トラブルを期待する
- 第三者的立場

気になる生徒はいませんか

【例えば】

- 板書を時間内に書き取ることが難しい
- 時間割や教室が急に変更になると混乱する
- 特定の物や記号、順序や配列にこだわる
- 他人の発言に唐突に反論する
- 要求が通らないと怒ったり、物にあたったりする
- 過去のできごとを理由に、突然怒りだす
- 班活動が始まると落ち着かない
- 部活動でトラブルがたえない
- 自分はみんなと違うと考えて、黙り込んでしまう

周囲の理解や支援が得られない場合、自己評価が低下して自信や意欲を失い、不適応を起こしたり、いじめの対象となったりする場合があります。また、それが不登校につながる場合があることも指摘されています。

なかなかノートがとれない 生徒に対しての合理的配慮は？

- 板書しながら説明しない
- 同時処理ができない
- ワークシートやプレゼンの工夫
- 計画的な板書
- 重要なポイントと板書のメリハリ
- 視聴覚機器や拡大コピー 文字だけでなく図表の提示
- 今指導している内容の説明ができる

複数の教員で多面的に

- 複数の教職員でかかわることで生徒を多面的に理解することができます。
- 生徒は、学習場面や生活場面ごとに多くの教職員とかかわることができます。
- 生徒は、教職員との関係を場面ごとに切り替えることができます。
- 教育相談や生徒指導などの既存の校内組織の中で、障がいの特性に応じた配慮や支援の視点に立って、取り組んでみましょう。
- ※校内の支援体制づくりには、校内コーディネーターを中心とした協力体制が必要です。
- 特別支援教育を校内コーディネーターのみに委ねることのないよう、相談や支援の内容に応じて、全校体制で取り組みましょう。

二次障がいて何？

- 子どもの困難さを周囲が理解して、適切な対応をしていない
- 本来ある困難さとは別の二次的な情緒や行動の問題が出てしまう
- 心の不安定さが身体機能にも影響を及ぼす可能性も多い
- 発達障がいはADHDとLDのように合併しているケースや不適切な関わり方によって派生した別の症状・障がいと併存することも多い

二次的障がいとは

- 発達障がい(一次的障がい)そのものではなく、周囲の人たちとの関係の問題から生じてくる様々な心理的問題や適応・行動上の問題
- 自信・意欲の低下、あきらめ、なげやりな態度、孤立、被害感情、周囲の人への不信感や敵意、反抗、暴言・暴力、器物破損、行為障がい、身体症状、不登校、引きこもり、せつなな生活 etc
- ⇨ **どの年齢でも生じうるが、特に、思春期以降に 大きな問題となりやすい**

「問題行動を生まない」取組

- 「未然防止」と「初期対応」の二つ
- 早期発見早期対応は起きてからの対応のこと。つまり、一般的な問題行動の場合なら、「未然」と表現できないことは明白。
- 「未然防止」が大切。

発達障がいや被虐待の青年期の特徴

- 自己中心的で、他者への配慮等ができない
- 対人関係の持ち方が不器用
- 不満や怒り等の感情をうまく表現、発散できない
- 結果を考えず、衝動的に行動する
- 被害感が強く、ひがみやすい
- 言葉による内面の表現、整理が苦手
- 自尊感情の低さ、適切な自己評価ができない
- 共感性や社会性の乏しさ
- 基礎学力や知識の乏しさ、数の概念・認識不足
- 身体機能の未熟さ
- 生活面での認知のずれ、一般常識の乏しさ

基本的対応

- ・ 長所を探し, 認める
- ・ 習得に時間がかかる
- ・ 適切な援助のための CPC
- ・ Calm : 落ち着いて Positive : 前向きな
Consistent : 首尾一貫した姿勢
- ・ 不適切な言葉をかけない
- ・ 不注意の特性を理解する
- ・ 子どもの自己理解を目指す

環境調整のヒント

＜注意力への戦略例＞

- ・ 邪魔なものは, 注意が散漫にならないように机や教室から排除する
- ・ 単純明快で簡潔な指示を心がける
- ・ 気が散らないように, 前列, 教師の近くに座らせる(緊張・不安の度合いで最前列か2, 3列目かに決める)
- ・ 机と机の距離をとり, 容易に四方の生徒に手が伸びないように配慮する

環境調整のヒント

- 多動性への戦略

- 大切なことは、多動性を押さえようとせず、「動ける保証」をすることである
- 授業中に小休止を設定したり、ストレッチ体操などを取り入れる
- 子どもに完璧な態度を求めず、多少の態度のだらしなさは容認する
- 移動教室使用時は、単独行動でなくグループで移動させるか、何らかの役割を持たせる

環境調整のヒント

- 自尊心への戦略

- 子ども同士の励まし合いを学級内に作り出す
- 間違った行動は、叱責・指摘せず、正しい行動を教える
- 集団の中で「恥ずかしい」経験をしないよう配慮する

環境調整のヒント

- 不安定な情緒面への戦略
 - 常に確認し、励まし、褒めて、優しく接する
 - どのような場合でも、子どもに脅かしや、怒りをぶつけてはいけない
 - 担任と一対一で話ができる保障をする。校内にほっと出来る安全地帯を設置する

環境調整のヒント

- 社会性への戦略
 - 子どものいる小集団全員の集団意識を競争から協力へと転回する
 - 自分から上手にSOSが出せるように配慮する
 - クラス内に弱者意識を持たせない（いじめの温床になりやすい）
 - 何事も協力しあい、助け合い、認め合えるようなクラスづくりを目指す
 - 重要なのは、ルールを守ることと、自分の思いを相手に伝えることである
 - ゲーム感覚で、社会性を養うと有効なことが多い
 - 論理的な話し合いを心がける

やる気を持たせるために

- 他者に誉められることで、頑張ろう、さらに認めてもらおうと思う
- 報酬をもらうことで励みになる
- 関わる側が熱心すぎると、期待感や強制感に追いつめられることもある
- ほどほどの期待と、十分な賞賛

やる気を持たせるための対応策

- 外発的動機づけ
 - 他者に誉められる、報酬をもらうこと
- 内発的動機づけ
 - 自己決定感(自分は自立している)、有能感(自分は有能である)、交流感(自分は愛されている)を充足させることで高まる、「学習すること」それ自体が目標
- 注意:関わる側が熱心すぎると、期待感や強制感から内発的動機づけが低くなってしまう.

青年・成人期の支援課題

<コミュニケーション>

- ・ 行動障がいの軽減も含め、他者との円滑な社会生活を送るために必要なコミュニケーション、やりとりや要求に始まり、報告・連絡・相談、そして経験や知識を生かして相手の気持ちをつかむ他

<作業・就労>

- ・ 作業や仕事において求められる技能や態度など、企業や施設などで行われる作業や仕事に関する技能や就労に必要な能力他

<健康・疾病予防>

- ・ 肉体的・精神的に疾病や障がいを抱える状態を予防し、健康維持・増進する他

<学習・余暇・SST>

- ・ 余暇活動や社会資源の利用といった、豊かで幅広い社会生活をおくる他

<生活・自立・ADL>

- ・ 食事・排泄・着脱などの身辺処理や清掃・洗濯・調理・理容など日常生活の活動他

安心・安全な進学・就労へ～教育的な環境作り～

- ・ 平等な人間関係(上司(教員)、同僚(同級生)の適切な介入)
- ・ 寛容的な風土
- ・ 話し合い, ルールによる課題解決
- ・ パニック状態を解消し, 生活が安定
- ・ 大学等への指導の要求
- ・ 協調こそが持続力を生む
- ・ 仕事・学業の成功、称賛が自尊心の向上

安心・安全な環境へ

～教育的な環境作りがもたらすもの～

- 逸脱行動の減少
対人トラブルを話し合いで解決する力の獲得
- 「できないこと」は弱点ではない環境
わかったふり、わからないことから素直へ（個性が認められる）
素直さが表現でき、懸命に努力する子どもたち
→自尊心の向上へ
- 他者を信頼（みんながいるから）⇒安心感

個別指導～生活面～

- 自分の気持ちや考えの表現を補助する
→カードやワークシートの活用
- 感情と行動のコントロール
→トークン・エコノミーとレスポンス・コストの組み合わせなど
- 被害的に受け止めることへの対応
→受け止め方を変える
→二分法的思考（「全て良い」「全て悪い」）からの脱却



悪い状況の中でも、良い点があることに気づかせる。

どのような援助が必要？

- 長所を伸ばしていく(よいところさがし)
- 認知能力の底上げ(見方・考え方を広げる)
- 「聴く」態度の形成
- 注意して「見る」態度の形成
- 適切なうなずき, 視線を配る, ジェスチャーや表情等の非言語コミュニケーションの意味の理解
- 周囲への配慮
- 発話速度への配慮(声の音量も)
- 短く, 具体的に

自尊感情とは

- 自尊感情のある子どもは,
 - ①他者を肯定的に捉える傾向がある。
 - ②心温かく他者と接することができる。
 - 豊かな人間関係を作りやすい。
 - 異文化を背景に持った人たちとの生活において, 寛大で受容的な態度が取れる。
 - ③困難な場面において, 自ら進んで解決しようとする姿勢が見られる。
 - 他者にすぐ依存せず, 逆境の中でも希望を捨てずに行動する。
(『いっしょに学ぼう～Learning Together～』より)

文化の違い？

「障がい」を「文化」の違いとして捉える

(田井みゆき, 2009)



- 理解することから,
 - 子どもたちのリ・スタートにつなげる働き掛けをこれからも
 - リ・スタートした社会で多くのつながりを大切に,適切な支援を
 - あきらめないで！

実践から

- 意欲とコミュニケーションの関連は
- 操作の確実性と緊張抑制、手指の可動域等
⇒緩めと動き
- 社会的空間性⇒自立と自己肯定感
- 伝えることと理解してもらうこと

事例からみられる全般的対応

(1)指示が通らない背景要因と問題解決

- 「指示が通らない」といってもその背景や原因には様々な要素が考えられる。
- ①音を正確に聞き取る力の未成熟からくる、意味の取り間違いや弁別の困難さがあります(聴覚弁別の弱さ)。
- ②注意持続が困難なため、肝心なところを聞き落したり、多動によって聞き取れなかったりすることがあります(注意持続の弱さ)。
- ③同時に2つ以上のことを指示されたために一部しか聞き取れないこともあります(記憶の容量の少なさ)。
- ④語彙数が少ないためにことばの理解ができない(ことばの意味理解の弱さ)。

(2)トラブルが多かったり反抗的な態度をとった りの背景要因と問題解決

- 友だちとのトラブルが多かったり、反抗的な態度をとったりする原因には、脳機能の中で、前頭前野の問題つまり実行機能の障がいがあると考えられている。
- 前もって計画を立てて、見通しを持って実行していくことが困難になり、感情のままに行動してしまったり、感情を抑制できなかったりしてしまう。
- 前もって見通しがもてないとゲームの細かいルールが理解できなかったり、共同での作業や計画を立てて遂行したりすることができない。

こころがけたい大人の行動

- 些細なことは無視し、よい場面はすぐに褒めることが大切である。
- タイムアウトを有効活用し「なぜ？」という問い詰めより「どうしたい？」ということを探ねたほうが本人もわかりやすい。
- 実際のトラブルの場面を設定し、ロールプレイを行なってしっかりと会話する必要がある。
- 具体的なルールの取り決めの確認をする。
- 生徒同士の励ましあい、協力し合い、助け合い、認め合えるクラス、授業が大切である。
- 間違った行動は叱責でなく、正しい行動を伝える。

こころがけたい大人の行動

- 集団の中で叱りつけると「カッコ悪い」という思いが強くなるので、別室で指導することも必要になる。
- 大人は脅しと怒りの指導を排除する事に努め、常に確認、励まし、褒め、やさしく接することを心がける必要がある。
- 会話の時間をとることで、ゼミや大人が本人の安全地帯と感じられるようにする。
- 課題設定を競争することから、協力することを多く取り入れる必要がある。
- 自分からSOSが出せるように方法を提示しておくことも必要である。
- 自分はだめな人だという弱者意識の排除が大切である。

こだわりや過敏のため不登校になりがちな生徒の実態と対応。

①高等学校で見られる事例

- 1)他の生徒の行動が気になりすぎる(神経質になり過ぎる)。
例えば、ちょっとした笑い声などでも、「今何で笑ってたんですか？」などとクレームのような質問をしてくる。
- 2)「空気が読めない」生徒。「声量を落とすべき場所で落とせない」、「年長者との距離感がつかめず、ふさわしい態度が取れない」といった様子が見られたが、悪意は全く感じられない。体も小さく、全体的に幼く見える。
- 3)授業の座席で、指定席の場合は座れるが、自由席の場合はどこに座ればよいかわからず、困っていることも伝えられず、家に帰る。また、座席に座れても自由時間の過ごし方がわからずそわそわしたり、対人的な圧迫感から負担が大きくなったりする。授業に出にくくなり、単位喪失、不登校になる。

②一般的よくみられる実態

- 学校で勉強を頑張りたいと思っている。授業に熱心に参加し、準備もしている。
- まわりの私語が気になったり、先生の考えが自分とずれていたりしてストレスになっている。
- ストレスや疲労がたまり、注意不足や、生活の乱れにつながり、遅刻や欠席をする。
- 欠席したのがつらくて授業に行けなくなり、単位を落としたり、不登校になったりする。

③考えられる原因

- 聴覚過敏
 - こだわりの強さや柔軟な考え方ができない。
 - 社会性の低さや先生や友人の考え方に共感しにくい。
 - 記憶力が強く、失敗した場面が頭から離れない。不安症状が強くなる。
 - 幼いころから注意されることが多く、自己否定感が強い。
- ⇒ 自閉症スペクトラム、不安障がい他

④一般的な対応

- 聴覚過敏へはイヤーマフ対応。
- 様々な考え方の良い面、悪い面を丁寧に、具体的に説明する。
- 遅刻欠席の許される回数をあらかじめ提示しておく。
- 本人の努力を評価する。

共感性に乏しく、グループワークや対人関係でトラブルがある生徒の実態と対応。

①高等学校等での事例

- 1) 具体的に、何をこうしろと指示され、やるべきことが明確であるとそれには問題なく取り組むことができるが、グループワークで自分の意見を求められたり、自由に書いたり、自由に考えたり等という課題の時に難しい。
- 2) 授業内のグループワークが非常に苦手。数人でのグループ作業では場の空気が読みづらく、自分の意見を押し通そうするもしくは、相手の意見を聞かないといったことが起こる。生徒本人は良い課題を仕上げようと頑張っているつもりだが、周りからは理解されずに孤立してしまう。
- 3) 同級生との間では、自分が興味のある分野の話題だと話ができるが、自分が興味のない分野だと相手の話を聞くことが難しく、話題が広がらない。相手に合わせるということが難しいため一人で行動することが多く、空き時間や昼休みなどに時間を潰すことが難しい。そのために「学校内に居場所が無い」と訴える。

①高等学校等で見られる事例

- 4)友人や教職員との間でも、自分の意見が通らないと衝動的にカッとなりやすい。その際に相手が丁寧に対応すると落ち着くことはできるが、強い口調で責められると、相手に対して攻撃的になりやすい。
- 5)人とのコミュニケーションに自信がなく、男性に苦手意識がある。頻繁に来室し、話しをするが、内容は愚痴が多い。他生徒がいても周囲を気にせず、自分の話をする。周囲の状況を考慮できない。友人間のトラブルが多い。特に、初対面の人との間では誤解されやすい。自分の意見は、しっかりと頭の中でまとまらないうと話すことができないため、質問に対する回答に時間がかかることがある。話をしていると、同じ時間内でも数分前に話していた内容とは食い違っていることがある。気分には波があり、まわりを巻き込みやすい

実践報告 I・II

支援教育推進フォーラム



「布施北高校における 支援教育の現状と今後の課題」

発表者：府立布施北高等学校 教頭 花井 優介

1

本日お話しさせていただく内容

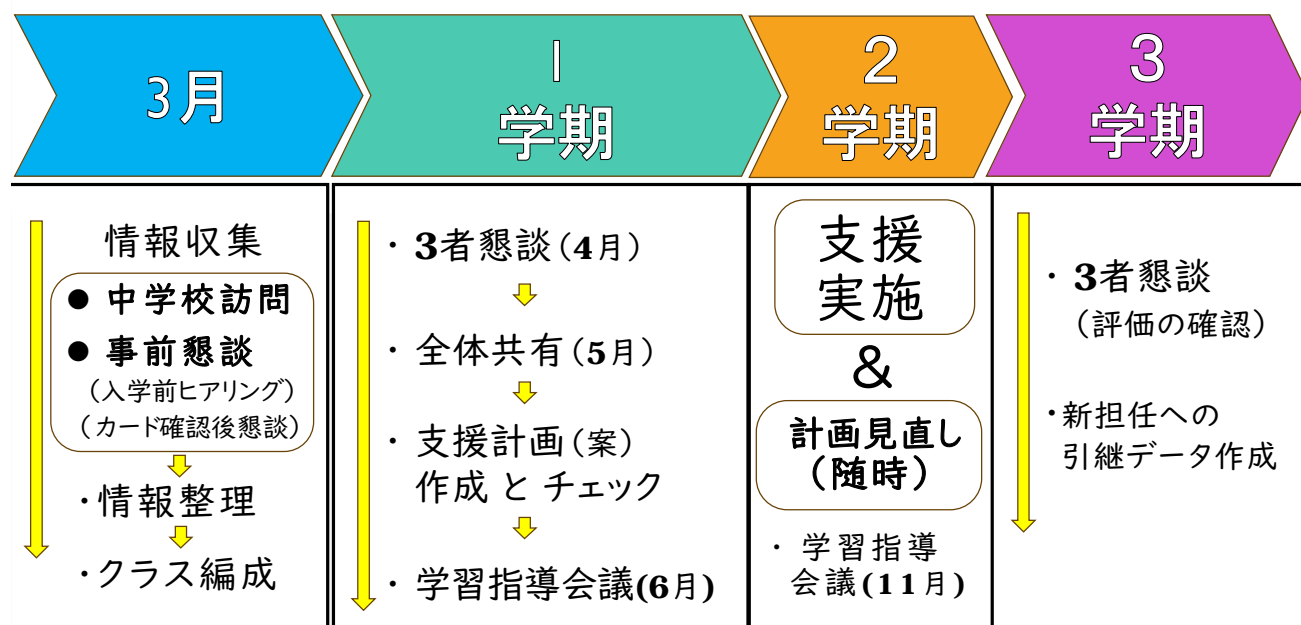
1. 支援教育を支える本校の体制について （支援の流れ）
2. 実践事例の紹介
3. 支援に対する学校の認識の変容と今後の課題

2

Ⅰ. 支援教育を支える本校の体制について (支援の流れ)

3

支援の年間スケジュール



3月：丁寧な情報収集による中学校からのスムーズな移行

- ・ 中学校訪問



- ・ 事前懇談(2種)



- ・ 情報整理
(教育相談委員会)



- ・ クラス編成

入学前ヒアリング
(物品購入日に実施)

+

高校生活支援カード確認後懇談
(入学式後に実施)

☆ 中学校からのスムーズな移行

☆ 収集した情報の整理

☆ クラス編成を工夫して、きめ細かな指導を行える体制をつくる

1学期 4月～7月～個別の教育支援計画作成と実態把握期間～

4
月

- ・ 3者懇談
- ・ 個別の教育支援計画(案)
作成 (担任)

個別の教育支援計画作成の
意思確認

5
月

- ・ 全体共有
- ・ 個別の教育支援計画(案)
提出 (担任)

生徒情報を職員会議にて共有

6
月

- ・ 個別の教育支援計画案
チェック
- ・ 学習指導会議

支援Co、教頭がチェック
→ 教頭席後ろの棚にファイリング

7
月

- ・ 3者懇談

個別の教育支援計画内容の確認

実
態
把
握
期
間

●●期 【●年●組】 1学期中間考査後 学習指導会議 会議資料

番	名前	科目	記号記入欄				コメント欄① [学習面]	コメント欄② [生活・行動面]	コメント欄③ [社会性・対人関係]	
			欠時	態度	居眠り	提出物	気になる様子や、単位習得に向けてのアドバイスなどあれば			
7	A	【英O I】			▲		GW明けごろから居眠り多			2
		【社会入門】		×			ほとんど振り返り(主体)が書いてません。			2
		【体育】	▲				欠席・見学5/15			2
		【家庭基礎】						授業中のトイレが多い		1
		【キャリア基礎】		▲		▲	文章を書くことができない	集中が続かない		4
8	B	【情報 I】		▲					空気に流されてしまい、止まらない。	2
		【社会入門】					35点			1
		音楽						じっとしていることになんかストレスを感じているように見える。	突拍子のない発言が時々ある。怒っているような物言いをする。	2
10	C	【現代の国語】				▲	勉強の意欲低下			2
		【英O I】		▲			最近プリントに一切取り組みずっぽーとしてしていることも。			2
		【社会入門】			▲		GW明けから居眠り増えました 28点			2
		【家庭基礎】			×		寝ていて、提出物に不備があることがある			2
		【キャリア基礎】		▲			自信がないのか取り組むのが遅い			2
		【基礎数学】		▲						1

1学期 4月～7月～個別の教育支援計画作成と実態把握期間～

4月

- ・ 3者懇談
- ・ 個別の教育支援計画(案)作成 (担任)

個別の教育支援計画作成の意思確認

5月

- ・ 全体共有
- ・ 個別の教育支援計画(案)提出 (担任)

生徒情報を職員会議にて共有

6月

- ・ 個別の教育支援計画案 チェック
- ・ 学習指導会議

支援Co、教頭がチェック
→ 教頭席後ろの棚にファイリング

7月

- ・ 3者懇談

個別の教育支援計画内容の確認

実態把握期間

2 学期 [8月～3月] ～ 支援教育の実践 ～

8
月

・
・
・

11
月

・
・

2
月

・ 支援計画の内容に沿って支援を進める

・ 学習指導会議② (11月)

※ 必要があれば随時計画の見直し

教育相談委員会

構成メンバー

- | | | |
|-----------|----------|---------|
| ・ 教育相談委員長 | ・ 支援教育Co | ・ 各学年担当 |
| ・ 養 護 教 諭 | ・ 人権教育主担 | ・ 教 頭 |

- ・ 年間を通して、週に1度会議を開催
- ・ 全学年の生徒情報の共有を行う

(出欠状況、家庭環境、人間関係、授業の様子、保健室利用状況の確認、
SC・SSWと教員、生徒の面談の調整 …)

3 学期 ～ 個別の教育支援計画の評価と次年度への引継 ～

2
月

・ **3者懇談**

1年間の評価と次年度への課題の確認

・
・
・

・ **新担任への引継** 所定のシートに様子を記入し次年度担任へ引き継ぎ

3
月

※ 卒業時には個別の教育支援計画を生徒へ返却し、次の就職先、
進学先へ引き継ぐ

2. 実践事例

～ 3年生 Aさんのケース ～



Aさんに関する、中学校からのヒアリング内容



- ・ 中3から支援学級に入級
 - ・ 感情が高ぶりやすく、パニックになると攻撃的になる
 - ・ 見通しの立たない予定変更が苦手
 - ・ 教室内で立ち歩き、周りを気にせず大きな声で話す
 - ・ 集中が続かなくなると大きな声で独り言を話す
-
- ・ 提出物が出ない
 - ・ 漢字が苦手、筋道立てて説明をするのが苦手
-
- ・ 受診や検査を促してきたが、母は頑として拒否している

13

1年次：実際に学校生活が始まってみると・・・

- ・ 空気が読めずに、授業中に大声で話をする・・・
- ・ 授業中、教員にずっと話しかけ続ける
- ・ 途中で集中が切れ、独り言を話し始める
- ・ 周囲の生徒から担任に
「Aがうるさいので席替えをして欲しい」
「Aがうるさいので先生にもっと注意して欲しい」
等の相談が毎日入る・・・



14

1年生

～ 高校に慣れる ～



15

1年次：個別の教育支援計画「支援の目標」

- クラスメイトと良好な人間関係を築き、維持できる。
- 落ち着けなかったり、感情的になったりする時は、
落ち着ける場所に移動できる。
- 提出物を期限内に提出できるようになる。



1年次

具体的な支援の内容



☆ クールダウンできる場所の確保

→ Aが感情的になったときは、いったん落ち着かせるために、言葉をかけて、教室の外に出す。

まずは傾聴してからアドバイスをする。

→ 授業はなるべく欠課にならないように気を付ける。

☆ 座席の配慮（廊下側の一番前の席に）

☆ 提出物を確認し、期限内に仕上げ提出できるよう、継続的に確認し、言葉がけを行う。

☆ 周りの生徒の不満は聞きつつ、理解を求め、粘り強く対応

17

1年次

その後の様子や教員の気付き

・ 教室からの退場は何度もあった。

→ 年間を通して、担任の先生が非常に粘り強く対応した。

・ SSWを定期利用するようになった

→ 支援教育C0と連携し、SSWを定期利用できるようになった。

・ 2学期から仲の良い友人ができた。

・ 放課後に苦手科目の提出物を仕上げることができた。

☆ 当該生徒は「ごめん」が言える。

（人に迷惑をかけていることを認識できている）



2年生

～ 「働く」を意識 ～



19

2年次

- ・デュアル実習（職業体験実習）を選択
- ・2つの実習先での経験【計8回ずつ】

前期（スポーツ用品店）・後期（被服関係の製造所）



2 年次 【デュアル実習（前期）】

- ・ フロアの掃除や品出しなどを経験

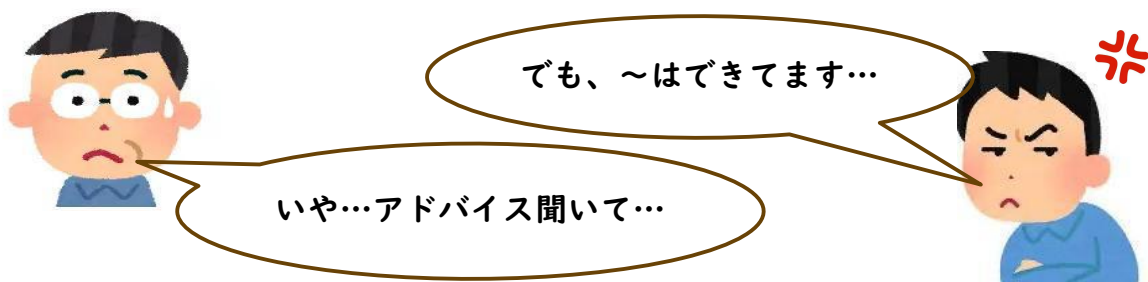
→ Aさん自身は満足して実習できたと思っていたが。



2 年次 【デュアル実習（後期）】

作業について改善ポイントを伝えようとする...

- 素直にミスを認められない...
- 返事をしない
- 実習先の方の話が終わる前に「分かりました」と言って話を遮る



2年次

- ・ TP0を考えず、ずっと関係のない話を続ける

→ 「これもコミュニケーションの一つ」と思っている



2年次： Aさんの様子や教員の気付き

- 教室退場について、年度初めには注意もあったが、**6月**から落ち着いた
- 課題の提出は引き続き良好だった
- 進路実現に向けて、社会人としての言葉遣いや態度を身に付けることができた



3年生

～ 就職に向けて ～



25

3年次の現時点までのAさんの様子や教員側の気付き

- 応募前企業見学に参加
- 就職試験で見事、内定をもらう
- 教室退場はほとんどなくなった
- 課題の提出も引き続き良好

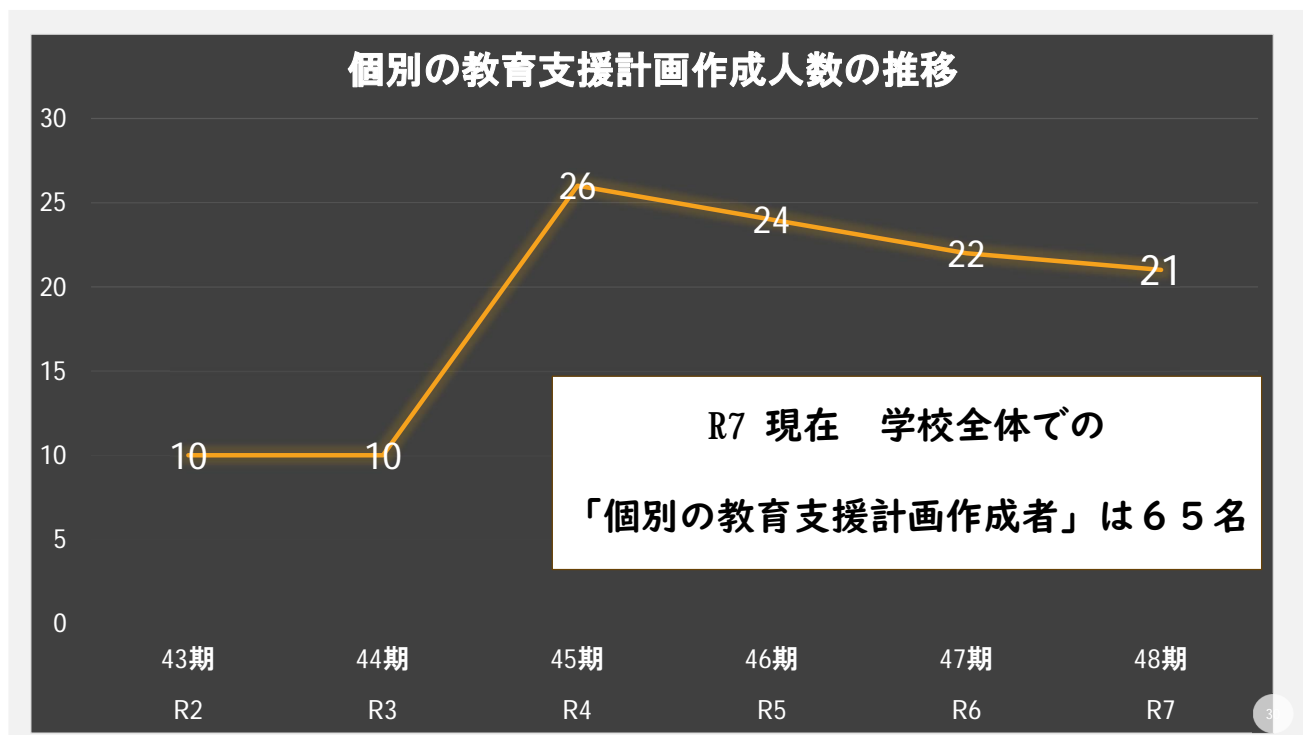


今後、心配なこと

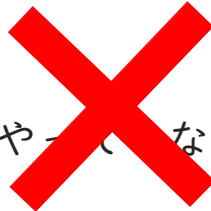
- 就職後に繋がる場所がない
- 依然として、Aさんの困り感を保護者が受容していない
- 企業への引継



3. 支援に対する学校の認識の 変容と今後の課題



「学習面」も「対人関係」も



「できるけど、やっていたなかった生徒達」

31

●●期 【●年●組】 1学期中間考査後 学習指導会議 会議資料

番	名前	科目	記号記入欄				コメント欄① [学習面]	コメント欄② [生活・行動面]	コメント欄③ [社会性・対人関係]
			× 良くない ▲ あまり良くない ○ 良い				気になる様子や、単位習得に向けてのアドバイスなどあれば		
			欠時	態度	居眠り	提出物			
7	A	【英O I】			▲		GW明けごろから居眠り多		
		【社会入門】		×			ほとんど振り返り(主体)が書いてません。		
		【体育】	▲				欠席・見学5/15		
		【家庭基礎】						授業中のトイレが多い	
		【キャリア基礎】		▲		▲	文章を書くことができない	集中が続かない	
8	B	【情報 I】		▲					空気に流されてしまい、止まらない。
		【社会入門】					35点		
		音楽						じっとしていることかなりストレスを感じているように見える。	突拍子のない発言が時々ある。怒っているような物言いをする。
10	C	【現代の国語】				▲	勉強の意欲低下		
		【英O I】		▲			最近プリントに一切取り組みずぼらっぽくしていることも。		
		【社会入門】			▲		GW明けから居眠り増えました 28点		
		【家庭基礎】			×		寝ていて、提出物に不備があることがある		
		【キャリア基礎】		▲			自信がないのか取り組みが遅い		
		【基礎数学】		▲					

昨年までの「学習指導会議」の課題

- 「学習指導会議」を放課後、同じ日時に、全学年が一斉に実施していた
 - ➡ 気になっている生徒の話が聞けない
 - ➡ 担任の先生が気にかけて見てほしいと思っている生徒が誰か、またその様子がわからない

「学習指導会議」の開催方法を改善！

- 「学習指導会議」の日は午後の授業をカット
- **2**日間に分けて全教員が全学年の会議に参加できるよう日程を以下のように調整！

1日め：	2年生	＋	3年生
2日め：	1年生	＋	要配慮生徒

今後の課題

- 個別の教育支援計画作成のための、より分かりやすいマニュアル作成とノウハウの構築
- 全教員が「できること・できないこと」を明確化するとともに、それを合意形成できるようになる

最後に

- 支援教育は、制度や個別の教育支援計画作成だけでなく、生徒一人ひとりに寄り添う「日々の関わり」の積み重ねが大切
- 教職員がチームとなって支援を続けることが大切

本校の通級指導について



大阪府立中央高等学校 教諭 池田新太郎

 大阪府立中央高等学校

1. 本校について
2. 通級指導の取り組みについて
3. 今後の課題

 大阪府立中央高等学校

本校について

大阪のと真ん中にある大学のような高校

自主自立の精神のもと、

 昼夜間単位制

 授業時間

 授業選択

 服装・頭髪

 校内外の出入り

生徒の個性を尊重

昼夜間単位制

大阪府内唯一の昼夜間単位制

1限(10:50開始)～10限(21:05終了)の中から、
自分の希望する時間帯で学習する。

1・2限	昼 休 み	3・4限	5・6限	夕 休 み	7・8限	9・10限
10:50 ～		13:10 ～	14:55 ～		17:35 ～	19:30 ～
12:25		14:45	16:30		19:10	21:05
昼間クラス生徒					夜間クラス生徒	

2年次以降、自分の希望する時間帯で学習

校内支援体制

- スクールカウンセラー(SC)
- スクールソーシャルワーカー(SSW)
- 居場所カフェ「まもるカフェ」
- キャリア教育コーディネーター(CC)
- 通級による指導



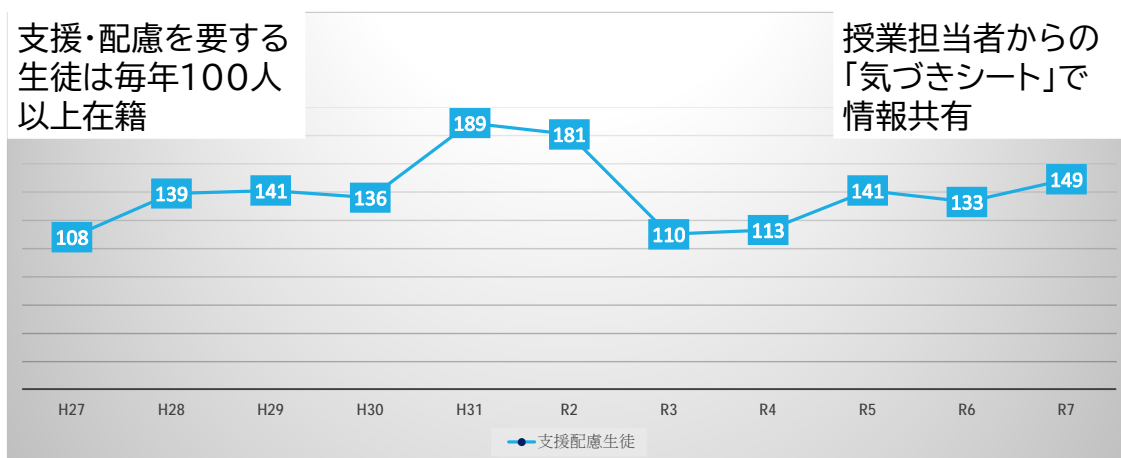
生徒の特徴や課題

- ・年齢層が広い
- ・希望進路の種類が多い
- ・不登校や中途退学、発達障がいなどの特性、家庭状況の困難
- ・自己管理が求められる
→学習意欲やマナーモラルの低さ
- ・コミュニケーションスキルや自己肯定感・自尊感情の低さから起こるトラブルの多さ

支援・配慮を要する生徒の推移

支援・配慮を要する生徒は毎年100人以上在籍

授業担当者からの「気づきシート」で情報共有



通級指導の取り組みについて



大阪府立中央高等学校

本校での通称

MAP

Mindset for Action and Progress

(行動と進歩のための考え方)



大阪府立中央高等学校

MAP

対象となる生徒

- (1) 本人に発達障がいやその他の特性があり、学習上・生活上の困りごとが改善されることで学習意欲や自己肯定感の向上が期待できる生徒。
- (2) 本人(保護者は任意)がMAP説明会に参加し、通級による指導の趣旨を十分理解している。
- (3) 本人・保護者の双方が受講を希望していて、やる気がある。
※保護者のみが希望している場合は適切ではない。
- (4) 日々の授業を欠席せず、継続して通級による指導を受けることができる生徒。

MAP

対象生徒決定までの流れ ①

- ・原則、希望者による公募
- ・4月から次年度の希望者を募る → 約半年かけて検討

4月 次年度の通級について全生徒に告知

6月 「生徒向けおよび保護者向け説明会の案内」プリント配付
→ 説明会の実施

7月 懇談でチューター(担任)より意思確認

MAP

対象生徒決定までの流れ ②

9月上旬 通級受講申し込み締め切り

9月下旬 支援委員会で「申し込みリスト」より検討、内定者決定

10月 校長が内定者認定

12月 科目履修登録にてMAPを登録 → 次年度4月から受講開始

MAP

授業での取組み①

「マイ・マイルストーン」

毎回の授業開始時に、1週間の振り返りを記入して発表する

マイ・マイルストーン ワークシート

年 月 日
MAP
ワークシート

姓 名

ゴールにたどり着くために途中で設定する目標地点のことを「マイルストーン」と言います。
ステップアップするための 小さな目標＝マイルストーン を見つけよう！

今日の気持ち

おだやか びっくり 安心しん どんより うれしい しんがれ たのしい いらいら ひくひく

○ 今日までの一週間を振り返って、工夫ポイントを見つけてよう！

<p>できたこと</p> <p>ポジティブな感情・経験・数人から言われた「ありがとう」に注目しよう</p>	<p>できなかったこと</p> <p>いかに悔かなくてもOK！ なれば「できたこと」に注目しよう</p>
<p>自分のいいところ</p> <p>「できたこと」「できなかったこと」 どちらの面からも考えよう</p>	<p>できるとよかったところ</p> <p>「できたこと」からも さらに「できること」を考えよう</p>

明日からできる工夫ポイント、次の一週間の目標、やり遂げること

MAP

授業での取組み②

「コミュニケーションに関するワークシート」

コミュニケーションの方法や自己や他者の感情などについて学習

行動とストレス

★正しい行動を「変える」わけではなく、自分が「ストレス」を感じない範囲で、その場面に「ふさわしい」行動を選べるようになることが目標です。

(1) あなたは、ボランティア活動の経験者になりました。集まった生徒は30人ほどです。どうやら習熟度のようです。最初の説明が終わった後、休みに入り、どこどこかに話しやべりの輪ができて始めました。あなたの近くでも3人の生徒が話しかけて、自分も話に加わりたいと言いました。どうしたら仲間に入れるでしょうか。

Q. 思いついた方法をできるだけ書き、書き出してみよう。

Q. 下の例を相手から見たらどう見えるか考えよう。受け入れやすいと思う順に○、△、△で記入しよう。

- ①「〇〇ですよろしく」と断って入る。
- ②「〇〇、どこから来たの？」と質問する。
- ③「笑顔で「こんにちは! 〇〇学校の〇〇です」と自己紹介する。
- ④「私も入っていますか。」と笑顔で近づく。
- ⑤何となく相手の方を見て、話を聞いている。
- ⑥「資料を渡りながら、話しかけられるのを待つ。

★会話の入り方のポイント

・相手に「視線」を向ける。・相手に「近づく」。
・はじめは相手の顔を「聞く」・「笑顔」で、話しかける。

行動	への意見	相手の受ける印象
①「〇〇ですよろしく」と断って入る。	大・中・小	
②「〇〇、どこから来たの？」と質問する。	大・中・小	
③笑顔で「こんにちは! 〇〇学校の〇〇です」と自己紹介する。	大・中・小	
④「私も入っていますか。」と笑顔で近づく。	大・中・小	
⑤何となく相手の方を見て、話を聞いている。	大・中・小	
⑥資料を渡りながら、話しかけられるのを待つ。	大・中・小	

1

MAP

授業での取組み③

「コミュニケーションに関するワークシート」

「自己PR文」の作成

アピールする言葉集

★自分をアピールする言葉集です。自信のある、自分に合っている順にA・B・C・Dを記入していきましょう。

自分に関わる強み	
やり抜く力	忍耐力
継続力	粘り強さ
実行力	活動意欲
集中力	ストレス耐性
主体性	挑戦心・チャレンジ精神
改善・成長意欲	内向き思考
志・目標	度がある・本心に強い
感情をコントロールする力	タフな(精神力)
使命感・責任感	目標指向性・達成意欲
パッション(情熱)	探究心
好奇心	変化対応力・柔軟性
行動力	積極性
他人に関わる強み	
親しみやすさ	気配り・ホスピタリティ
素直さ	誠実さ
責任感	約束を守る
協調性・チームワーク力	指導・育成力
働きかける力(巻き込み力)	わかりやすく伝える力
傾聴力	プレゼンテーション力
調整・交渉力	コミュニケーション力
リーダーシップ	
課題に対する強み	
論理的思考力	課題発見力
企画力	計画力
想像力	提案力
分析力	広い視点で捉える力
正確性	スピード

(1) Aを聞いた言葉について、思いつく具体的なエピソードを書きましょう。

MAP

授業での取組み④

- プランター栽培
栽培を通して自然に働きかけ、収穫を得ることで達成感や自己肯定感を育む
- エクササイズ
互いに「励まし」や「賞賛」の言葉をかけ合い、けん玉などで体を動かす
- ゲーム
コミュニケーションに関するゲームに取り組む

MAP

授業の教室

じゅうたんやオフィスチェア
のある空間で、落ち着いて
課題に取り組める



MAP

令和6年度調査



受ける前に困っていたこと

感情がコントロールできない
人と話すのが苦手
人前でうまく話せない
人見知り

受けて感じた効果

依存してた自分を傷つける人と別れて新しい人間関係を築けたし、色々行動的になった
チューターとかにMAP受けて落ち着いたって言われた
次は何を話すかを考えられるようになった
ある程度は話せるようになった

MAP

令和6年度調査

感じた効果(複数回答可)

困っていたことが改善された	100%
自分自身のことがよく理解できた	50%
自信が持てるようになった	25%
これからの生活や卒業後の進路先で役立つと感じた	25%
特に変化はなかった	0%
その他	0%

感想

よかった	100%
まあまあよかった	0%
あまりよくなかった	0%
よくなかった	0%



MAP

事例報告(生徒の状況)

3年女子

【本人の困り感】

- ・ 家族以外の人と話すことが苦手でうまく声が出せない
- ・ 授業などで分からないことを聞くのが苦手

【本人・保護者の願い】

- ・ 文化祭に参加したい、友人も作りたい
- ・ どの世代の人ともコミュニケーションを取れるようになる

MAP

事例報告(支援に向けたアセスメント①)

【活かしたい良さ】

- ・ アニメやゲームなどファンタジーな世界観に興味があり、調べ学習が好きで得意である

【目標設定】

長期…先生や友人に質問をしたり、わからないことを聞いたりすることが出来る。

短期…知っている先生だけでなく、知らない先生にも、挨拶ができる。

MAP

事例報告(支援に向けたアセスメント②)

【支援のてだて】

- ・ 1週間毎に振り返りを行い、自分や周りの生徒の発表について意見交換を行う。
- ・ 進学や就職の面接を想定し、自己分析や自己紹介の練習を行う。
- ・ コミュニケーションの場面を想定したロールプレイを行う。

MAP

事例報告(授業での様子)

- ・ 当初は質問されてもほとんど話せず、小さくうなづく程度
- ・ 下を向いたままゲームやエクササイズをするのでうまくできない

教員も発表や
ロールプレイに
参加し活性化



- ・ 好きなアニメや音楽の話をした時、他の生徒が「いいね」と反応
- ・ モザイクアートの題材を提案して選ばれる
- ・ ゲームなどで、教員に促されながらも少しずつ「励まし」や「賞賛」の声が出せるように

MAP

事例報告(取り組みによる変化)

- ・ 質問されれば、小さい声ながらも答える機会が増えた(アニメなど)
- ・ MAP内での教員との会話が増え、担任との会話に広がりつつある
- ・ 姿勢が良くなり、ゲームやエクササイズがうまくなってきた



- ・ 文化祭では担任の支援を受け、企画を発表
- ・ 大学の総合型選抜を受験(担任が面接指導)

MAP

事例報告(生徒の文書)

MAP ふりかえりシート No. 1

日付	内容	理解度	確認欄
1/4	1 目標 → 12月まで	Q	初
1/16	2 目標 → 12月まで	A B C	初
1/17	3 目標 → 12月まで	A B C	初
1/18	4 目標 → 12月まで	A B C	初
1/19	5 目標 → 12月まで	A B C	初
1/20	6 目標 → 12月まで	A B C	初

2年

3年

2年よりも3年の方が分量・内容ともよく書けるようになった

MAP ふりかえりカード No. 1

日付	内容	理解度	確認欄
1/4	1 目標 → 12月まで	Q	初
1/16	2 目標 → 12月まで	A B C	初
1/17	3 目標 → 12月まで	A B C	初
1/18	4 目標 → 12月まで	A B C	初
1/19	5 目標 → 12月まで	A B C	初
1/20	6 目標 → 12月まで	A B C	初

MAP

事例報告(取り組みの振り返り)

- ・ 趣味や興味のあることに対して周りの生徒が関心を示したことにより、少しずつ話せるようになってきた → 心理的安全、グループ学習の利点
- ・ コミュニケーションが取れるようになりたい本人の意思が成長につながった
→ 本人のニーズを汲み取り授業展開できた
- ・ グループでのコミュニケーションに拒否感がある生徒に対して柔軟に対応
→ 事前アセスメント・教員間の情報共有の重要性

今後の課題

MAP

通級開始から3年の変化

○ 通級による指導の開始後の変化

- ・ 教員の変化 … 生徒を個別にみる意識
- ・ 校内体制 … 支援委員会中心に、配慮が必要な生徒への支援

○ 通級の対象ではない生徒への支援

- ・ 検査の活用 … GATB など
- ・ 教材の活用 … 総合的な探究の時間

MAP

通級指導の課題

- ・希望者への対応
- ・受講する生徒層の偏り
- ・担当できる教員を増やす
- ・授業のバリエーションを増やす

MAP

校内支援教育の課題

- ・ 教員同士の情報共有 … 横のつながり
- ・ 支援委員会 … 縦のつながり
- ・ 通級受講者以外の生徒支援 … きめ細かく

大阪府立 中央高校

昼夜間 単位制

大阪のど真ん中にある大学のような高校。

